

令和7年度第1回鳥栖市環境審議会 議事録

【日 時】 令和7年11月21日（金） 10時00分～11時40分

【場 所】 市役所2階第1会議室

【議 題】 第3次鳥栖市環境基本計画の進捗状況について

(1)令和6年度実績報告

(2)鳥栖市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画

— 議題1 第3次鳥栖市環境基本計画の進捗状況について —	
事務局	資料1「令和6年度鳥栖市環境レポート」、別紙1「環境基本計画事業評価」、別紙2「取組の柱早見表」をもとに令和6年度の実績報告について説明
委員	二酸化炭素の排出量の結果について、なぜ令和4年度の内容なのか。
事務局	二酸化炭素の排出量については、環境省が公表している“環境カルテ”をもとに算出しているもの。この環境カルテについては、統計に係る集計の都合で、現在の最新数値が令和4年度となっており、タイムラグが生じている。
委員	一人あたりの二酸化炭素の排出量について、令和4年度の二酸化炭素の排出量をいつの年度の人口で割っているのか。
委員	人口も令和4年度の人口にて割り替えしているものとなる。
委員	令和4年度から令和7年度にかけて、鳥栖市の人口は増えているか。
事務局	資料1の4ページに近年の人口増減を記載している。年度毎の増減はあるが、トータルでみると人口自体は増加している状況である。
会長	二酸化炭素の排出量の状況について、令和5年度や令和6年度の暫定値は把握できるか。というのも、この環境カルテの数値は、鳥栖市役所が元となる数値を報告し、その数値を環境省が素材として、環境カルテの数値を算出していると想像しているが。
事務局	環境カルテは本市が数値を提出して算出しているものではない。国が鳥栖市の製造業従事者数、農林業従事者数、家庭世帯数、貨物台数等を勘案し、全体で割りしを行い、その他に二酸化炭素の排出係数を考慮した上で、算出されるもの。要するに、国が割り出した数値を受け取っているという、受け身での数値である。
会長	了解。鳥栖市の二酸化炭素の排出量の実態を完全に表すものではないということを理解しました。より実態が把握できればとは思いますが。
委員	鳥栖市の環境カルテでの数値結果はわかった。そして、2013年度と比較して減ってきているのもわかる。しかし、どの水準で減っているのかわからない。全国的に見ていき、より減っている自治体を参考にして、取組を真似する等

	したほうがよい。そういった取組等も紹介してもらい、議論をしていかないと二酸化炭素の排出量は減っていかないと感じた。
事務局	排出量の削減については、事業所、行政、市民等の各方面で取組を進めて行く必要があり、事業やライフスタイル等の変化を促すことが大事であると考えている。その取組の1つとしては、ゼロカーボン推進パートナー等の取組もある。委員の話にあったとおり、他自治体の取組事例も参考にしながら進めていきたい。
会長	鳥栖市の独自の取組を進めて行ってほしいというよりも、佐賀県の中でも各方面が連携する協議会が発足している。そういった取組や状況等を発信してもらう等でもよいと思う。
事務局	協議会について、佐賀県、県内自治体、商工会議所等が協力して二酸化炭素の削減を目指す、“SAGA ネットゼロコンソーシアム”という協議会が立ち上がっている。その中で、今年度は、各商工会議所等と連携して佐賀県内の中小企業の二酸化炭素の排出量の見える化支援（ワークショップ）が行われているが、鳥栖市での申込事業者数は1事業所であった。理由としては総務だけでなく現場対応も担っており、脱炭素の取組はしなければならないことはわかっているものの、手が回っていないことが考えられるワークショップ自体は非常に参考になったとの声もいただいている。脱炭素への社会的な潮流は進んでいく。引き続き、取組を進めたい。
会長	脱炭素に向けた企業の取組についてだが、二酸化炭素の排出量の把握や具体的な取組について、どういった取組がどこまで進んでいるのか気になる。本会議には、事業所の方も出席いただいているが、差し支えない範囲で、取組状況等を紹介してもらえるか。
委員	事業用自動車の電気自動車への移行、積極的な公共交通機関の活用、空調温度の適正管理等が中心となっている。また、関連会社にも脱炭素の取組を呼びかけているところ。
会長	他の委員はいかがか。
委員	電気自動車の活用を進めている。その他には、廃棄物をバイオマスとして活用するバイオマス発電等も行っている。
会長	二酸化炭素の排出量の把握等はどのような状況か。
委員	二酸化炭素の排出量については、専門で扱う部署があり、その部署で算出し、ホームページにて一般公開をしている。二酸化炭素の排出量のKPI（具体的な数値目標）を掲げ、各部門で事業をそれぞれ進めており、2030年度に目標達成という意識をもって、事業を行っている。

会長	資料1の中で、二酸化炭素の排出量に係り、2050年度の目標達成について触れられているが、難しい道のりとは感じるが、見通しはどうのように持っているか。
事務局	2050年度の目標達成については、高いハードルと認識している。この目標達成に向けては、大きなライフスタイルの見直し等も必要と感じる。そういった中、1つの取組として、今年度から佐賀県では事業者を対象とした省エネに関する高効率設備に対する補助金を設けている。また、決定事項ではないものの、市民への太陽光発電設備と蓄電池のセット導入に対する補助金等も計画としてある。こういった取組を進めていき、目標達成に近づけていきたい。
事務局	<p>— 議題2 鳥栖市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画について—</p> <p>資料2「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」、資料3「ごみ排出量等の推計」、資料4「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の改定について」、資料5「主要変更対照表」をもとに説明</p>
委員	資料5の12ページの右側上段にある令和6年度総排出量 26,544 t についてだが、議題1で使用した資料1の4ページの令和6年度排出量の 23,372 t と相違がある。また、1人1日当たりのごみの排出量、1人1日当たりの家庭ごみの排出量も同様に相違がある。一致しない要因はなにか。
事務局	両資料とも、数値は佐賀県東部環境施設組合から提供を受け、市の担当が資料を作成したもの。資料1は毎年提供を受けた数値でだしているが、今回の本計画の見直しに係り、佐賀県東部環境施設組合が数値を精査しなおしている部分が影響している。また、資料1の数値については資源物を含まないもの。資料5の数値は資源物を含んだ全てのものとなる。そのため、大きな差異がでている。
会長	数値の相違要因は理解した。資料1は資源物入っていないということで、その旨を記載すると親切という印象はある。
委員	ごみを減らすという話に関し、前回の会議で分別の話がでていたが、令和8年度から何か進んでいくことはあるか。
委員	資源物回収拠点として真木町にあるが、位置的に自動車が必須である。高齢化が今後さらに進む中で持っていくことが難しいと感じる。
事務局	資源物回収について、現在は真木町の資源物広場の1か所しかないという意見や高齢者等が出しつらいという内容は受けとめている。そういった声に応えていければとは考えており、町区のコンテナ収集において、資源物広場でしか回収していない7品目目を地区の要望に応じて希望する品目を追加できるという形で、令和8年度から試行的に行う予定である。また、各まちづくり推進センターにて、古紙類の回収ができるようなこともできないかと検討を進めている。しかし、全てを全町区、まちづくり推進センターで一斉にやること

	は難しいため、地元とも調整や相談をしながら進めているところである。
委員	地元町区で日頃対応をしているが、市は資源物回収等において、憂慮していることは伝わってくる。先日、回収品目に係る希望アンケート等を受け取り、回答させてもらった。町区によっては、子供クラブで回収しているところもあるため、町区によって、回収対応も異なってくる。そういう対応を現状してもらっていると想像している。
委員	令和 8 年度からまちづくり推進センターでの古紙類回収の話がでていたが、どこの地区でやるのか。回収することは決定しているのか。
事務局	令和 8 年度の事業として実施に向けて準備をしている。来年 3 月の予算化に向けた準備を進めている状況である。まずは 3 地区から始めていき、最終的には全地区で回収を行っていきたいと考えている。3 地区というのは、田代、旭、鳥栖北地区のまちづくり推進センターである。事業実施に向けて、引き続き準備を進めて行きたい。
委員	環境問題や資源物回収等への意識についてだが、資源物回収や地区行事などへの若者の参加が少ないと感じる。2050 年になると今の小学生が大人になる。若い世代をどんどん巻き込んでいき、市民意識を変えていく必要があると感じている。そのため、小学生向けに啓発ポスター等（何か感じてもらえるような）を設置してみてはどうか。また、子供だけでなく、今の 20 代-30 代も巻き込んでいく必要がある。町の区役等に来たら、キッチンカーで使える割引チケット特典がもらえる等、そういう若い世代を巻き込んでいくための観点も必要と感じている。このような具体的な話をできればとも感じている。
会長	審議会自体が限られた時間と回数ではあります、そういう話より多く今後できればと非常に感じております。 鳥栖市では、資源物の回収方法の見直し、特小ごみ袋の導入など、各事業を順調に進めてもらっている印象はあります。引き続き、各取組を一層に進めてもらいたいと思います。 その他に意見等はないようでしたら、時間の都合もあるため、議題 2 の鳥栖市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画について終わりたいと思います。

—議事終了—